

今、世界の子ども12人に1人、5,700万人が学校に通うことができません、大人の6人に1人にあたる7億7,400万人が読み書きできません。
世界の国々(日本も)は、2015年までにだれもが小学校を卒業できるようにする、と約束しました。
この約束が守られるように、2015年のゴールに向けておこなわれているのが「世界一大きな授業」です!



100 か国以上の子どもたち、先生、議員が、すべての人のための教育をうったえかけました。 日本では47都道府県の716校・グループ、69,151人が授業に参加しました。

●小学生から大学生まで参加

2014年は日本では4月21日(月)~5月18日(日)、47都道府県と海外の716校(小中学校、高校、大学など)・グループ、69,151人が参加。世界の子どもたちの学校教育の現状について知り、教育の大切さについて考える教材を使って、より良い世界のために何が出来るか考えました。さらに日本の海外への教育援助について、望ましい支援のあり方について話し合い、政策への提言を作りました。

●「友だちが学校に行けるように」とアピール



世界では「グローバル・アクション・ウィーク」として、100か国以上で、授業やイベントなど、それぞれに工夫をこらし、だれもが教育を受けられる社会になることをうったえかけました。
例えばソマリアなど、「友だちを学校に行けるようにして!」と、



障がいを持った子どもたちが学校に行くことができない現実を変えていこうとアピールしています。
フランスでは子どもたちがユネスコでスピーチをしました。
カンボジアでは、先生たちが、幼稚園の大切さを伝えるために、子どもたちの絵の展示会を催しました。



●文字を読めない体験

日本では、全国の学校が同じ教材をつかって授業を行いました。お母さんに薬を飲ませてあげたいけれど、ラベルの文字が読めないという体験をしたり、世界中の子どもに必要な教育費と軍事費をリボンの長さで比べたりしました。
また、パキスタンの少女、マララさんのエッセイを読み、「1人の子ども、1人の先生、1冊の本、そして1本のペンが世界を変えられる」ということばに感動が広がりました。マララさんはノーベル平和賞を受賞しました。



●参加者からの感想

「無知無関心は何もしない暴力」と感じた/字の読めない人がたくさんいる事を知り、驚いた/字が読めないことが危険なことがわかった/毎日学校に行けることに感謝/人と一緒に考え、話し合う機会が持てて良かった/教師になって途上国で教育にあたりたい/自分で調べて実情を理解し、何が出来るか考えるべき。現地の人と親近感を持って接し、心が通いあうようになりたい/マララさんが差別・迫害に耐えて行動しているのがすごい。自分の悩みが小さい事に気づいた。/質問形式の授業が中心だったので、参加しやすかった/など。



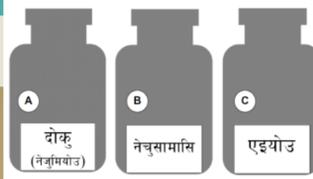
沖縄県立宜野座高等学校

教育の大切さを、実感しながら学びました。



小笠原村立 母島小学校

高熱で苦しむお母さんに
どれを飲ませたらいい?



北海道立ノ国高等学校



国会議員が、高校生の「先生」から、地球規模の教育格差の問題を体験学習。

日本は、途上国の子どもたちが学校に行けるための援助をしっかりとるように、国会議員の皆さんにお願いします。



「国会議員のための世界一大きな授業」
衆議院第一議員会館

●参加者からの政策提言

世界の实情を理解してもらうための広報活動強化。新聞、TV、などのメディアを活用。/軍事費が多いと思ったので、無駄を省いて、基礎教育分野にまわしてほしい。/留学生にお金を与えるのではなく学校に通えない子どもに教育費を与えた方がいい/世界の現状を学ぶ機会を増やす。/教育NGOを支援する。/危険な地域に住んでいる子どもを安全な環境で勉強できる様に支援してほしい/文字の読み書きができない大人に支援してほしい/日本は先進国なので、もっと世界に目を配らせるよう存在にならないといけない。

●国会議員に高校生が授業

今年で5年目を迎えた、高校生が先生役となる「国会議員のための世界一大きな授業」は、5月15日に行われ、21人の国会議員が「生徒」となって参加しました。

高校生の手づくり教材で、教育環境に恵まれて十分な情報が整う学校の生徒とそうでない生徒を国会議員が体験。続けて、学校に行けない子どもと小学校を途中でやめてしまう子どもが多いアフリカなどの地域に対して、日本政府の援助は配分が少ない事実を印象づけました。

そして最後に、小中学校への援助を増やし、もっとも援助が必要とされている地域にこそ力を入れるよう政策提言をしました。

●世界の約束と豊かな国の役割

世界の国々の約束は、子どもたちが教育を受けられるように頑張る途上国に対して、豊かな国がよりしっかり支援するというものです。

教育のためのグローバル・パートナーシップという国際機関が豊かな国々に約束を果たすよう、イギリスのブラウン元首相などが呼びかけています。

6月10日には同基金のギラード理事長が来日し、日本政府に、この基金にもっと協力してほしいとお願いしました。ギラードさんは元オーストラリア首相で、東日本大震災被災地に最も早く訪れた外国首相としても知られています。



ブラウン元イギリス首相



ギラード理事長

●首相官邸に、みなさんの声を届けました

世界一大きな授業の参加者から日本政府、安倍首相に向けて、約3,000枚のメッセージが寄せられ、実行委員会は首相官邸に送り届けました。国会議員イベントで先生役を務めた高校生が首相に面会できるように、働きかけを続けていきます。



全国から寄せられたメッセージ

2015年がゴール!!

学校に通えない子どもは2000年には1億人近くいました。その数は減ってきましたが、今なお5,700万人います。入学しても、教育環境の悪さや家計を支えるために働くなど、学校をやめる子どもは、例えばアフリカで毎年1,000万人います。
世界の約束の期限である2015年に「世界一大きな授業」はゴールを迎えます。来年が最後。ぜひ、参加してください!



主催:教育協力NGOネットワーク(JNNE)*途上国で教育協力を行うNGO 23団体のネットワーク
共催:プラン・ジャパン
特別協賛:KUMON English Immersion Camp
協力:地球対話ラボ
後援:文部科学省、外務省、全国連合小学校長会、全日本中学校長会、全国高等学校長協会、日本ユネスコ国内委員会、ユネスコ・アジア文化センター、動く→動かす、国際協力機構、国際連合広報センター、国際ボランティア学生協会、ガールスカウト日本連盟、「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議、児童労働ネットワーク、なんとなしなきゃ!プロジェクト、ボーイスカウト日本連盟
事務局 〒154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋2-11-22-11F 公益財団法人プラン・ジャパン内
電話:03-5481-0030 FAX:020-4662-2085 Eメール:advocacy@plan-japan.org
世界一大きな授業 www.jnne.org/gce/



企画・実施団体

開発教育協会 (BEAR)

開発教育協会

シャンティ国際ボランティア会

Save the Children JAPAN

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

賛同団体

CanDo

アフリカ地域開発市民の会

YMCA

日本YMCA同盟

Plan

プラン・ジャパン

FREE THE CHILDREN

フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

ラオスのこども